

# 平成28年度 椎葉村立大河内小学校 学校関係者評価書

4段階評価〔4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要する〕

	本年度の重点目標	具体的対策(手段)	職員	保護者	学校 評価 関係者	結果の考察・分析及び改善策等	保護者及び学校評価関係者からのコメント
豊かな 社会力 の育成	さまざまな体験活動を通して、感性を磨き、自分の思いや考えを的確に伝えるコミュニケーション能力を身に付ける。	① 規範意識のある行動とボランティア活動の継続化	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>JRC活動の中心であるボランティア活動やあいさつは日常化している。基本的な生活習慣やマナーについては、毎月目標を決めて具体的に指導した効果が現れている。</li> <li>図書の出数合計は昨年度比1学期が+78、2学期が+38と増加している。しかし、親子いっしょの「家読」となると不十分である。</li> <li>神楽への取組はもちろん、本年度新たに「臼太鼓踊り」に取り組み、運動会で披露できた。今後も継続していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校以外に地域においてもあいさつがよくできている。子どもたちが学校のミッションをよく理解し行動できているからではないか。</li> <li>学校では読書量も増え習慣化もできつつある。家庭でも以前と比べると読み聞かせなどは行われるようになってきた。</li> <li>臼太鼓踊りへの取組が具現化できたことは評価できる。神楽についても村内だけでなく宮崎市内の学校で発表する機会を設けるなど充実した取組が見られた。</li> </ul>
		② 基本的な生活習慣やマナーの習得	4	3	3		
		③ 体験活動と事後の表現活動の充実	4	4	4		
		④ 読書活動の充実	3	2	3		
		⑤ 地域行事への参加と伝統文化習得	4	4	4		
授業力 向上と 学力 向上	授業の工夫を通して、児童一人一人の学習意欲を高め、授業力及び学力を上げる。	① 「しっかり教える、じっくり考えさせる授業」の実践	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力調査結果は5年生は県全体比国語+15、社会+30、算数+26、理科+23、6年生は全国比国語A-1.8、国語B-1.1、算数A+1.6、算数B+6.6である。全学年が受けたCRTテストの結果については3月に分析し今後の授業改善と個別指導に活用する。</li> <li>複式解消のために、1～2年国語と4～5年理科・社会の指導体制を整備したり、放課後を利用した補充学習は対象学年に3年生を加えたりして、さらなる学力向上を図った。</li> <li>造園や竹細工(3/8実施)などのものづくりや芸術家を招いた表現活動など専門家から学ぶ機会を充実させた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参観日の授業等を見ると、各先生方が「めあて」と「まとめ」を意識して授業していることがよく分かる。子どもたちも意欲的に学習に取り組んでいる。</li> <li>複式解消のための取組や放課後の「ASSU4M」などを継続しさらなる学力向上に努めてほしい。</li> <li>さまざまな体験が不足している子どもたちのために学校が多様な体験活動を計画し実施している点は評価できる。大河内地区にいらっしゃる人材をもっと活用していく。</li> </ul>
		② 複式解消の支援体制整備と個別学習の充実	3	3	3		
		③ 家庭学習の習慣化	3	3	3		
		④ 「学びっ子週間」の充実と学習習慣の定着	4	3	3		
		⑤ Web学習単元評価システム活用と学力向上	3	3	3		
		⑥ 地域人材活用を活用した学びの充実	3	4	4		

健康・安全と体力向上	特色ある体力づくりの活動を充実するとともに健康・安全への意識を高め、子ども一人一人が命を大切に、危険回避能力を高める。	① 体力向上プラン完全実施による体力向上	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体力テストの結果、総合評価AとBの児童が男女とも2名から4名と増加した。(A判定は4名)</li> <li>・ 土砂災害についての学習は西都土木事務所、避難訓練については消防団の協力のもと実効性のある具体的な学習を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本校は山間部に位置し土砂災害への意識は高い反面「津波」への意識が低い。村外に出かけたときなどに意識することができるよう指導することが大切である。宮崎への遠足等の機会を活用して地震が起きたときにビルの屋上や高いところに避難する体験をさせる必要がある。</li> </ul>
		② 避難訓練や土砂災害等の学習を通じた、危険予知能力や危険回避能力の育成	3	3	3		
		③ 地域や関係機関と連携した安全・防災教育	4	3	3		
望ましい食習慣の育成	学校と家庭・地域との連携を通して、食育に対する意識を高め、子ども一人一人が望ましい食習慣を身に付ける。	① 「すすく週間」の充実と、食事マナーの習得	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ すくすくタイムや給食時間における食に関する指導のほか、4回の弁当の日の取組などを通して望ましい食習慣が身に付いてきた。</li> <li>・ 学校駐車場横に学校田を新設し、田植え、稲刈り、脱穀などの農業体験が充実した。今後は米だけでなく、椎茸栽培等にも取り組む。</li> <li>・ 「すすくみやざき食育実践事業」を活用し親子で取り組む料理教室を実施できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 望ましい食事マナーや正しい箸の使い方ができている。</li> <li>・ 食に対する個々の意識の差があることから、来年度は学校保健委員会等を活用して、食について学び合う機会を充実させ、学校と家庭が連携して取り組んでいけるようにする。</li> </ul>
		② 「弁当の日」の取組の推進と食への意識向上	4	4	4		
		③ 農業体験や栽培活動の推進	4	4	4		
		④ 給食での地産地消推進と地域人材を活用した食の学習推進	3	4	3		

#### 次年度の取組

- 校時程を変更し、毎朝のボランティア活動を児童全員(7名)でできるようにする。(8:05始業)
- 表現活動を学校外で実践する場を意図的に設定し、どんな場所でも誰に対しても自信をもって自分を表現できる児童を育てる。
- 「家読」推進のために、参観日などを通して、読み聞かせや親子読書の有用性などを伝え、実践化を図る。また、メディアとのつきあい方を含め家庭での環境づくりについても重点的に取り組む。
- 神楽や臼太鼓踊りについては、ふるさと学習の一環として取り組むために、保存会の方々の協力を得ながら総合的な学習の時間を中心に取り組む。
- 授業力向上のために、学校におけるOJTを計画的に進める。
- 複式解消のための取組をさらに推進、放課後の補充指導「ASSUタイム」は内容を再検討し、継続する。
- 家庭学習の習慣化、課題の与え方、家庭での学習意欲向上を図るための手立てについて全職員で共通理解し取り組む。
- 地域人材を活用した学習を充実させ、地域の方々との交流を図るとともに、直接体験をさせる場を充実する。
- 学校保健委員会や親子給食等の機会を活用したり、個々の家庭との連携を図りながら、食についての意識の向上を図る。
- 地域の消防団や関係機関と連携した防災・避難訓練を実施し、危険予知能力や危険回避能力を身に付ける。特に、津波についての意識を高めるために、宮崎への遠足等の機会を活用する。
- 農業体験については米作りのほか、トマトや椎茸栽培等にも取り組む。

